

## ■■■今号のおもな記事■■■

- |        |          |
|--------|----------|
| ・講演会要旨 | ・教養講座要旨  |
| ・エッセイ  | ・アメリカだより |
| ・研究部会  | ・総会報告    |

## 公開講演会要旨

## 高次脳機能からみた大人の「発達障害」



坂爪一幸

早稲田大学教育・総合科学学術院

## 1. 増えている？大人の発達障害

教育の現場では現在、特別支援教育を受ける子どもが増加しています。特別支援学級の在籍者はここ10年で2倍（20万1千人）、また特別支援学校の在籍者は1.36倍（13万8千人）になっています。一般の高校や大学でも発達障害のある生徒・学生の増加が問題化してきています。多くの大学の学生相談室では発達障害の存在を懸念される学生の相談件数が増えています。職場でも話題になることが多くなっています。

最近、大人の発達障害がよく話題になります。大人の発達障害の増加には、①発達障害のある子どもの増加（真の増加なのか、その原因など不明です）、②発達障害の理解の社会的な普及（正確な理解が普及しているわけではありません）、③発達障害の診断基準の変化（発達障害と健常発達とは連続するとみるようになり、安易に診断されがちです）などとの関連が指摘されています。しかし、真の原因や要因は不明です。

日本は国連の障害者権利条約を2014年に批准しました。2016年から施行される障害者差別解消法では不当な差別的取り扱いと合理的配慮をおこなわないことは差別として禁止しています。合理的配慮とは、障害のある人となない人の平等な機会を確保するために、障害の状態や性別、年齢などを考慮した変更や調整、サービスを提供することです。これは医療や教育や司法などすべての分野に適用されます。

## 2. 能力と行動からみた大人の発達障害

大人の発達障害では青年期以降になって気づかれる方が多いです。その場合、次のような特徴があります。概して、知的能力には明らかな障害を伴わないために、日常生活の課題は適切にこなしてうまく行動できます。そのために、幼児・児童期には発達障害の存在を見過ごされてきた方が多いです。しかし、青年期以降、社会的な場面への参加が増えるにつれて、行動の不適切さが目立ってきます。社会的な場面では抑制や社会性などの働きに強く負荷がかかり、発達障害の影響が現れやすくなります。

知的能力や日常生活の能力と行動に齟齬が目立つと、周囲は特徴的にみがちです。例えば、ある調査では大人の発達障害の特徴として、“好意を無にする”、“流れがわからない”、“話に水をさす”、“思いやりがない”、“えらそうにする”、“自己中心的である”、“融通がきかない”、“無頓着である”、“対人関係がつかめない”などが指摘されています。以前はこれらの特徴は性格の問題にされがちでした。最近は発達障害（自閉症スペクトラム障害や注意欠如・多動性障害）の存在を疑う傾向が強くなっています。

## 3. 高次脳機能からみた大人の発達障害

発達障害のある方の能力や行動の特徴は脳の働きに関係しています。脳機能は能力や行動の基盤です（図1参照）。発達障害は神経発生・発達上に生じた脳の働きの問題です。脳の機能から発達障害を理解する必要があります。

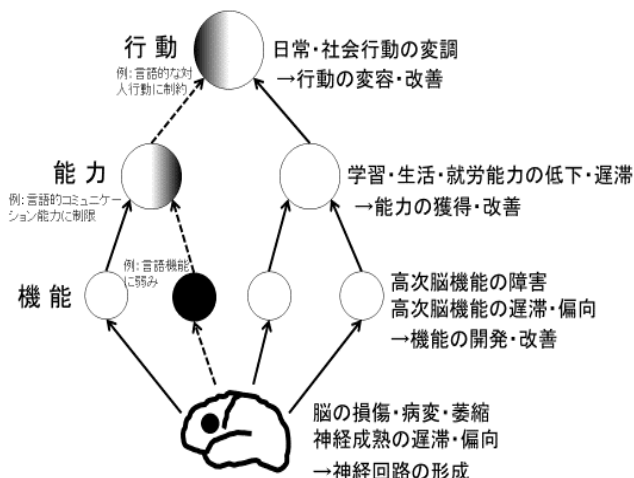


図1 行動・能力・機能と各障害および支援の関係(坂爪, 2012より引用)

言語や注意や認知や記憶などを高次脳機能といいます。感覚や運動といった脳の基礎機能は除きます。高次脳機能は脳（大脳皮質）の異なった領域に関係します。また脳の領域によって神経成熟の早さが異なります。神経成熟が最も遅いのは前頭葉（前頭連合野）です。発達障害では高次脳機能の獲得が全般に遅れたり偏ったりしやすいです。順調あるいは過剰に獲得された強みのある機能と獲得が遅滞した弱みのある機能が生じてきます。大人の発達障害では必ずしも脳に損傷があるわけではありませんが、神経成熟の遅い前頭葉に関係した高次脳機能に問題が現れやすいです。

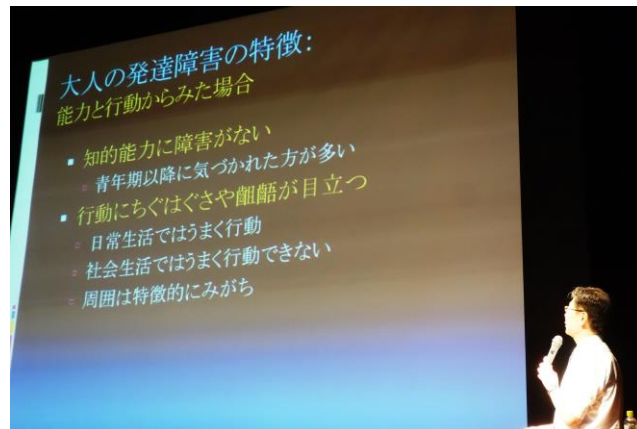
前頭葉損傷によって、遂行機能、作動記憶、展望記憶、抑制、注意、感情、意欲などの高次脳機能に障害が現れます。遂行機能障害では考えや行動に目的性や計画性や一貫性がなくなります。また考えや行動の誤りをすぐに修正できません。作動記憶障害では複数の情報をうまく処理できず、考えが混乱したり、総合的に判断できなかったりします。展望記憶障害では以前に覚えた事柄を適切なタイミングで思い出せなくなります。そのために約束事を守れなかったりします。抑制障害ではこらえやがまんができなくなります。行動が衝動的になったり、行動が周りに影響されやすくなったりします。注意障害では集中力や持続力がなくなります。感情障害では感情の動きが少なくなったり、逆に激しくなったりします。意欲障害では態度や活動に能動性や積極性がなくなります。

前頭葉損傷後には社会的行動障害も現れやすいです。社会的行動障害の症状を列挙すれば、次のようになります。興奮する、暴力を振るう、思い通りにならないと大声を出す、自己中心的になる、自発的な活動性が乏しい、感情反応が過剰に生起する、社会的スキルが低下する、人格が退行・未熟化する、こだわりが強くなる、などです。

#### 4. 大人の発達障害と苦悩

前述のように、大人の発達障害はこれまでその存在を見過ごされてきた方が多いです。しかし、発達障害自体は幼少期の頃から存在しています。発達障害があると周囲との軋轢がさまざまに生じます。これまで見過ごされて、適切な支援のないままに過ごしてきた結果、大人になるまでにさまざまな苦悩（不安や欲求不満や抑うつ）に曝され続けてきています。

これらの苦悩は子どもの頃はあきらめの早さとして行動化します。幼児から青年期以降まで継続してきた苦悩は、大人になるにつれてより複雑で深刻化します。成長するにつれて、自分と他者との比較や内省から、自己評価の低下として内面化します。苦悩する自分の正体に思い悩む方もいます。逆に無頓着な方もいます。苦悩が長期化すると、慢性疲労、不眠、強迫性、PTSD、摂食障害、アルコール依存などが生じやすいです。不健康な行動が多くなり、概して「生活の質」が貧しくなりやすいです。周囲との関係で現れてくるこのような苦悩への理解と支援が欠かせません。



#### 5. さまざまな支援の型

実際の支援は次の型に分けられます(図2参照)。

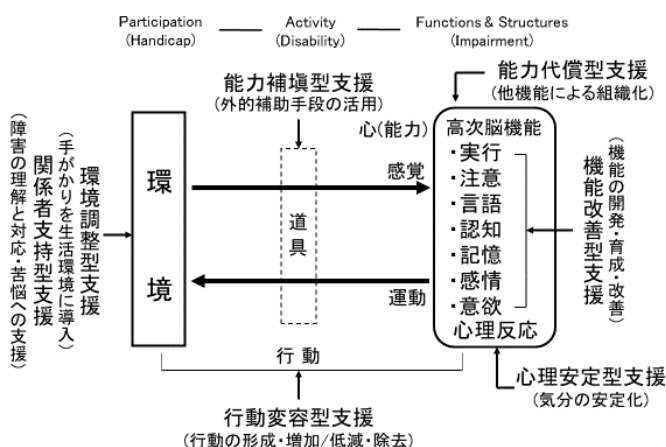


図2 支援の型(坂爪, 2007;2011より改変して引用)

①機能改善型支援は特定の弱みのある機能に焦点化して改善を目標とします。②能力代償型支援は弱みのある機能と強みのある機能とを組み合わせ、生活に必要な能力を補います。③能力補填型支援は弱みのある機能に外的補助手段(道具)を活用して補います。④行動変容型支援は適応行動を形成・維持し、問題行動を低減・除去する支援です。⑤心理安定型支援は不安定になりがちな心理状態を安定させる支援です。⑥環境調整型支援は弱みのある機能や能力に合わせて環境を調整する支援です。必要な情報を環境内にわかりやすく提供する支援です。⑦関係者支持型支援は関係者の抱えやすい苦悩を支えたり、発達障害の理解と支援の仕方を教育したりする支援です。

発達障害の状態や年齢や生活環境に応じて、これらの型の支援を適切に使い分ける必要があります。いずれの型の支援を実施するにしても、高次脳機能の確認が欠かせません。能力や行動の基盤である高次脳機能の状態がわからなければ、さまざまな支援を導く根拠があいまいになりやすいです。



## 6. 大人の発達障害への支援

大人の発達障害の場合、実年齢の高さ、指導する専門スタッフの不足、そして指導の時間と場所の確保の困難さなどから、弱みのある機能を直接改善する機能改善型支援よりも、間接的な支援が中心になります。本人への自己理解の促し、および本人の特徴や苦悩に配慮した就学や就労などの生活環境を調整する支援が大切になります。

支援では本人の特徴とそれへの対処の説明が重要になります。実際の生活の場で現れやすい特徴（得意と苦手）と対処の仕方の具体的な説明が欠かせません。具体的に理解できなければ、生活の場で活用できる現実的な対処法を策定できません。発達障害の特徴や心理反応の説明と対処法を適切に示すことが基本になります。説明には診断名を告げるだけでは不十分です。また、説明に際しては、障害に一方的に対峙させるのではなく、本人の気持ちに十分な配慮が不可欠です。

本人には次の支援が大切になります。①発達障害の一般的な知識の提供、②自分を納得できる教育的な説明（自己理解の促し）、③苦手な能力の具体的な補い方、④苦手な能力を補う道具の活用の仕方、⑤不健康な行動や考え方の誤り・偏りの修正、⑥実生活で生じやすい問題を解決する実践的な対処マニュアルの作成（本人向け）。

本人の関係者への支援や本人の特徴に配慮した生活（学校・職場）環境の調整も必要になります。次のような支援が求められます。①発達障害への理解の啓発、②発達障害の知識に関する教育的な説明、③実生活で生じやすい問題を解決する実践的な支援・対処マニュアルの作成（関係者向け）、④身近な相談相手や実践的な支援者の確保、⑤拠り所の用意、⑥ピア・グループの構成と参加、⑦学校や職場でのナチュラル・サポート体制の構築。

### 文献

- 1) 坂爪一幸・本田哲三（2004）：遂行機能障害の認知リハビリテーション。（高次脳機能障害のリハビリテーションVer.2、江藤文夫、武田克彦、原 寛美ら編）医歯薬出版、東京、pp.260-264、2004.
- 2) 坂爪一幸：高次脳機能の障害心理学—神経心理学的症状とリハビリテーション・アプローチ—、学文社、2007.
- 3) 坂爪一幸：特別支援教育に力を発揮する神経心理学入門、学研教育出版、2011.
- 4) 坂爪一幸：発達障害の増加と懸念される原因についての一考察—診断、社会受容、あるいは胎児環境の変化？—、早稲田教育評論（早稲田大学教育総合研究所紀要）、26(1):21-31、2012.
- 5) 坂爪一幸：発達障害と認知症にみる障害の理解と支援、日本健康医学会雑誌、21(2):50-55、2012.

## 折れない心を育む体験 :レジリエンスを身につけよう



山本利枝

大阪大学連合小児発達学研究所

### A. レジリエンスのある人は心が折れにくい？

レジリエンスは一言で言うと「自己回復力」です。たとえ、パニックになっても、いつもの自分を取り戻し、落ち着いて日常の行動をとれることです。○人は誰でもが突発的な予期せぬできごとに出会うことがあります。地震や台風などの自然災害  
友達とのトラブル  
初めての出会い  
テストの結果等

### B. レジリエンスの高い人は

1. 失敗にめげない
2. 考える力がある。できごと→考え→感情→行動
3. 不公平を乗り越える
4. 気分転換がうまい（運動・趣味）
5. サポートリソースの活用ができる
6. 貯めているレジリエンス

### C. 小学校の子どもたちのレジリエンスの例

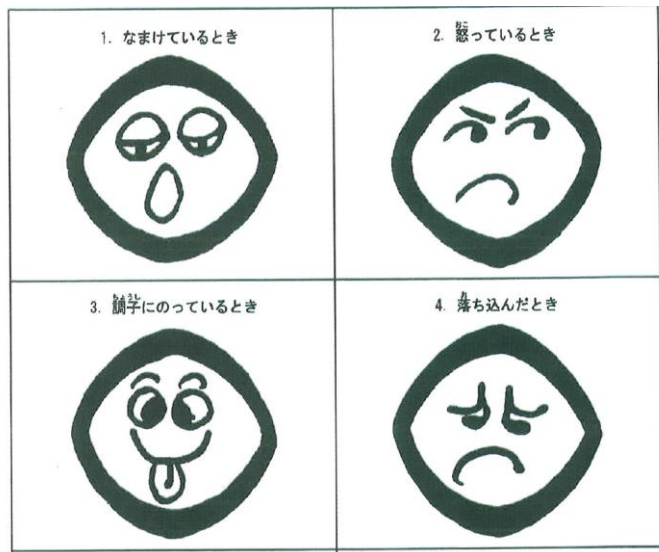
1. 誰かが失礼な態度や不公平な態度をとったときに極端な怒りや戦いの気持ちをもたないようにできること。
2. テストの時や、はじめての人に出会う時に極度に緊張して、心配し過ぎない。
3. もし誰かが悪くいう人がいて理由がわからない時に、大きく落ち込んで、その場から逃げたりしないこと。
4. 心配し過ぎた時でも適切な時間の中で落ち着くこと。

全ての子どもたちや若者がかなりの忍耐が必要な問題に出会って、挫折してしまったときに元気になるにはレジリエンスのスキルが必要です。子どもたちはうまく自分の気持ちをコントロールできなければ、心の健康を保つことの困難さや、行動や学習の困難さに直面するでしょう。このプログラムでは子どもたちや若者に次のようなレジリエンスを身につけることを目指しています。

## D.ワークショップ

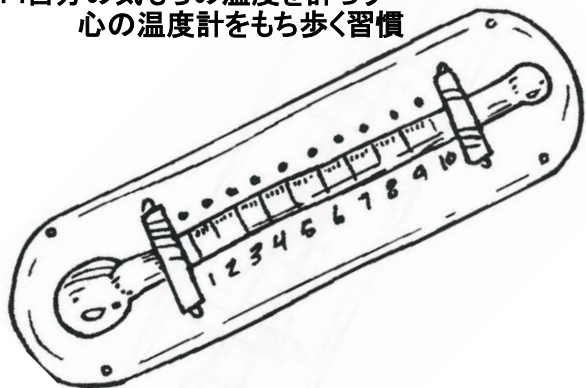
You Can Do It Education Program  
(Bernard M.E.)  
レジリエンスプログラム日本語版  
(山本利枝・松本有貴)

### 1. 自分の気持ちをわかって。



- 自分の気持ちを理解しましょう。
- 自分だけではなく、だれでも同じような気持ちをもつことをわかりましょう。自分に対する気持ちと、ほかの人に対する気持ち、私たちがやった事、人生であったできごとなど、すべての人間はみんな気持ちをもつことを心に留めましょう。例えば病気になった動物をみると悲しくなり、プレゼントをもらおうと誰でもうれしくなります。
- 愉快的な気持ち、(例えば、盛り上がる気持ち、幸せな気持ち)、不愉快的な気持ち(例えばいかりや心配、落ち込みややる気がないなど)があることを説明しましょう。6個の気持ちをボードに書きましょう。それぞれの気持ちになる場面を考えてみましょう。
- 顔のワークシートを配りましょう。
- 自分の感じた気持ちについて話し合しましょう。

### 2. 自分の気持ちの温度を計ろう 心の温度計をもち歩く習慣



あなたの心の中に温度計をもちましょう。

A. 暑いか寒いかを決めるときに温度計を使います。私たちはこの温度計でどのくらい心が熱いか冷たいかを見ることができのでしょうか。私たちが心の中にどのくらい(たくさん)熱いか、どのくらい(少し)冷たくなっているかを説明しましょう。(例えば、もし自分が大変奮して、怒っているとすれば、心の温度計はどのレベルまであがっているのでしょうか。)

B. 現在の心のレベルに近い温度計の数字に線を引きましょう。心の1番低いレベルの数字は1を指して、中ぐらいのレベルの数字は5を指して、最も高い数字は10を指します。もしあなたが怒りや(困惑した気持ち)ちや、幸せや、落ち込みや、興奮を感じた時どうしますか。

C. 同じ気持ちの別の強さになっていくことができるように、別のことばについて考えましょう。(例えばいらいら、怒り、荒れ狂う)その例はそれぞれの数字で温度計のどこに位置するでしょうか。

### 3. よく考えよう

世界の大事件と比べてみよう。自分の事件は大事件?

#### 大事件スケール

- 大事件スケールを見て、どの位自分の事件はひどいのかを考えてみましょう
- 大事件スケールは広い視野で自分を守るためのものです。
- 大事件スケールの最高レベルは信じられないほどに、恐ろしく悪いことです。物事のひどさのレベルを指しましょう。事実、それは世界で起きる最高レベルの悪いことです。(90か100戦争、自然災害、家族が、病気で亡くなってしまうなど。)最高レベルで起きる人生の本当の大事件、下の方で起きた少し悪いことなど、大事件スケールで計ることができます。すべての悪いできごとはその間に入ります。70から90レベルで、大変悪いことだけど、世界的大事件ではない。(自動車の事故、自分の家が火事になる、ペットが死んでしまう)次のレベルは30から60で、悪いが、ひどくは悪くないレベル(小さな事故、テストにおちる等)誰でもが同意するレベル、少し悪いできごと(0から30レベル)。(家でお昼を食べ損ねる、少しのすり傷ができるなど)





#### 4. 気分を変える活動

##### ・5-3-5呼吸法・リラクゼーション

人はテストの前や、ほかの人の前でスピーチをする時や、初めての人に会う時、あるいは人と議論をする時に、傷ついたり、緊張したりすることを説明してあげましょう。

肺の中からゆっくりと吐き出します。次に5数えながらゆっくり吸います。1、2、3、4、5。今度は3数えて息を止めます。そしてまた、5数えてゆっくり吐き出しましょう。これを3回繰り返しましょう。このようなリラクセス法の練習のあと、どのように感じましたか。落ちつきますか。リラックスできますか。

##### ・運動でストレス解消

A. だれかに怒りを感じたり、心配だったり、落ち込んだりしたときに、元気を回復するために別の役に立つ方法は運動です。怒りを感じたり、落ちこんだり、心配な時、元気になるエンドルフィンを出してくれるかもしれません。

B. 5つか6つの自分の好きな運動を確認しましょう。

#### 5. 自分は一人ではない(身近なサポート資源の確認)

相談したい人の名前を手の形のワークシートに書きます。



#### 誰かに話す人を見つけること

A. 人と話すことにより、困難な場面で落ち着くことができることです。

B. 落ち着くために話しかける人はだれかを考えて、その人名前のリストを書きましょう。

#### 6. 自分を受け入れるための学習

・自分を肯定する力。失敗に学べる力。失敗が多いほど成功の種が多い？

A. レジリエンスの考えは理解しやすく、落ちつくのに役に立つアイディアです。例えば、間違いをしたらします。他のみんなも失敗をします。失敗しただけで悪いというわけではありません。これを私たちは自分を認めるプラスの考えと呼びます。

B. レジリエンスでない考えは、本当に私たちの心を傷つける行動や考え方です。ミスをしたときに、私は間違えてしまうダメな人だと思うことは自分を落ち込ませる考えと呼びます。

C. 落ち込むことがあったできごとをリストアップしましょう。

D. レッスン2の心の温度計を思い出しましょう。心の温度計に響く、ひどく落ち込ませてしまうような考えについて自分にたずねましょう。否定的な考えの例をリストに作りましょう。例えば、わたしは失敗者、私はだめだ、これ以上良くなることはないなどです。

E. なぜ、否定的な考えは解決や、レジリエンスにつながらないのかについて知しましょう。起きたことで落ちこみたくなかったら、助けになる考えを出し合いましょう。例えば、私はできる人、私は私、なまける人ではない、などです。悪いことが起きた時に思い出しましょう。否定的な考え方ではなく、前向きな考え方で切り抜ける、レジリエンスになる考え方です。

#### 7. 不公平を乗り越える力

##### クラス全体の話し合いー

##### ”不公平なことが起きた時、うまく対処できる”

A. 不公平かがそれは不公平だと言ったり、自分も不公平だと考えたことがありますか。

B. 不公平な出来事に出会って、怒ったり、落ちこんだり、やめてしまうことは、私は耐えられるというレジリエンスの考えを使わないことです。

C. オリンピック選手が水泳レースで失格になりました。なぜなら、彼は2秒速くプールに飛び込んだからです。その時の本人の考え方は、「これは不公平だ、たくさん練習したのに失格になってしまうなんて。」不公平な場面だという考え方について:「これは不公平だ。納得ができない。水泳をやめてしまうかもしれない。」あまり怒りを感じなかった場合、不公平だが私は我慢できるという考え方:「次の試合では頑張って勝てばいい。」この2つの考え方の違いについて考えましょう。

D. 不公平だが、何とか対応できる道を選ぶとよい解決につながります。不公平なできごとに耐えるか、自分がその不公平なできごとに破壊されてしまうかを考えましょう。耐えられないと思えば本当に耐えられなくなることを思い出しましょう。

E. 不公平な時の耐えられる次の考えについて話し合いましょう。

公平ではないが、うまく対処できます。

公平ではないが、最悪ではありません。

公平ではないが、この世の終わりではないと思います。

公平ではないが、何とかたち直れます。

#### 8. 貯められるレジリエンス

##### あなたが貯金できるレジリエンスの考え方

A. いざこざや、プレッシャーや、困難なことについてよくよく考えて回復できずにいるよりは、レジリエンスを使うことの重要性を思い出せることが大切です。

B. 子ぶたの貯金箱に「あなたもできるレジリエンスの考え」を付箋に書いて貯めましょう。「自分を信じる力」「自分を認める力」「乗り越えられる力」など。一度たまるとずっと使えます。使えば使うほど貯まります。

##### 大人も子どももワークのやり方は一緒です。

・難しい問題に直面した時はこのレジリエンスのプログラムを使ってみませんか。まず落ちついて考えましょう。

## 「泣いた赤おに」の物語を 読んで連想したこと

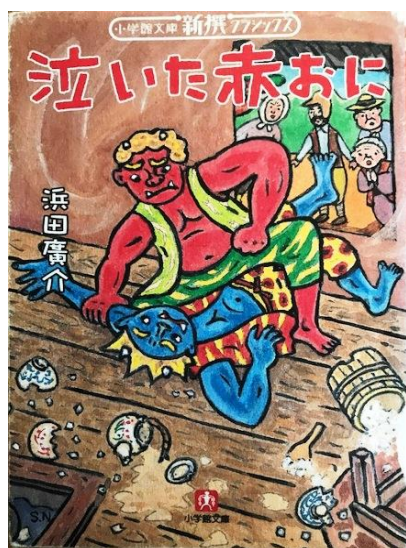


今泉岳雄

(1972年・文学部卒)

筆者は今年の3月まで6年間、山形県にある小さな私立大学に教員として勤務していた。その縁で在任中に、山形県出身の童話作家浜田広介作の「泣いた赤おに」について臨床心理学の立場から話をしてほしいと広介童話研究会より依頼されたことがある。

筆者はこの作品のあらすじは知ってはいたが、きちんと原作を読んだこともなければ、浜田広介については何の知識も持っていなかった。しかし、「泣いた赤おに」がなぜ今でも広く読み継がれているかについては興味を持ったので、この機会に原作に触れてみようと思い依頼を引き受けた。その後原作を読み、浜田広介について調べる中で、「泣いた赤おに」は最初は「おにのさうだん」のタイトルで1933年に発表され、翌年には「鬼の涙」と改題・書き直され、その翌年から「泣いた赤おに」として話の大筋は残されつつ、広介が80歳（1973年）の生涯を閉じるまでに、何度となく細部が改変されながら雑誌や本に発表され続け、今日に至っていることを知った。広介の没後40年を過ぎた今も絵本や童話集の形で発刊は続いている。また、2011年には「泣いた赤おに」の物語を下敷きにした山崎貴と八木竜一合同監督による3DフルCGの「friends もののけ島のナキ」が映画化されている。さらに2015年にはNHK山形放送局制作の「私の青おに」が放映されている。小学校の道徳の授業の資料としても1962年に文部省の「小学校道徳資料4小学校道徳読み物利用指導Ⅰ（低学年）」で取り上げられて以来、現在でも学校図書、光文書院、文溪堂、光村図書の副読本に入っており、対象も低学年から高学年に広がっている。道徳の資料としては簡略化されているが、2011年の教育出版の「小学校二年生」の教科書には全文が掲載されている。



小学館文庫 新撰クラシックス

このように、今でも「泣いた赤おに」は読み継がれており、多くの方が物語を知っていると思うが、以下に物語の概要を紹介してみたい。

村近くの山の崖に住んでいる若い赤鬼は、絵本に描いてあるような鬼とはだいぶ容姿が違っていたが、やはり目は大きくて頭には角の跡らしいとがったものがついてた。彼は、鬼だけでなく人間とも仲良くなりたいと思い、「自分がやさしい鬼であり、おいしいお茶やお菓子を用意しているので遊びに来てほしい」と立札を出す。しかし、村人は恐れて遊びに来ないので、腹を立てて立札をへし折る。ちょうどその時に、はるか山奥から訪れた友人の青鬼は、その理由を知って、自分が村で暴れるからそれを追い払う役を赤鬼が行い、村人の信用を得るようにしたらどうだろうと提案する。赤鬼は躊躇するが、「なにか、ひとつのめぼしいことをやり遂げるには、きっと、どこで、痛い思いか、損をしなくちゃならないさ。誰かが、犠牲に、身代わりに、なるのでなくちゃ、できないさ。」と、もの悲しげな目つきを見せて、青鬼は言い、実行する。その結果、青鬼を追い払った赤鬼を村人は信用し家へ遊びに訪れるようになり、赤鬼からお茶やお菓子をご馳走になる。しばらくして、赤鬼はその後青鬼が姿を見せないことが気になり、青鬼の家を訪ねてみる。しかし、青鬼の姿はなく、家の戸に「自分がいると君が村人に疑われるので旅に出るが、いつまでも君を忘れない。いつまでも君の友達 青鬼」と書いた張り紙がされていた。それを何度も読んで赤鬼は涙を流す。

この物語が一般読者にも教育の場においても読み継がれてきた理由として、「青鬼の自己を犠牲にした献身的な友情」(文部省小学校道德の指導資料 第2集1965)が読者の心に訴えることがあげられる。しかし、筆者は作品を読み返してみて、それに対する違和感とともに、様々な連想が湧いてきた。

違和感の一つは、青鬼の一方的な行為である。自分が悪役になる提案をし、それに従った赤鬼が村人に受け入れられるという目的を遂げると、赤鬼に予告なく貼り紙だけを残して姿を消してしまうのである。この行為が「自己を犠牲にした献身的な友情」として読者の感動を引き起こすのであろうが、本来友情とは双方向的なものであり、青鬼の一方的な行為は赤鬼の意思を確認しない独善的なものにも感じた。実際、道德教育の行われる学校現場でも、高学年になるにつれ「これが本当の友情と言えるのか？」ということが議論のテーマになってきているようである。個の尊重が謳われるようになった戦後の民主主義教育においては当然起きる疑問であろう。

幼い子にとっては、青鬼が突然姿を消すことは、母親などの大事な人が突然いなくなるという対象喪失の不安を喚起するため、心に残る物語となっているのではないかと感じた。この突然の別れによる物語の終結は、読者にその後の物語を様々な連想させる。実際にその後の物語がインターネットにいくつか示されている。この作品がその後の物語に自己を投影させやすいことも、この作品が今も広く読まれている一因になっているように思われる。

筆者がこの物語を読んで一番心が動いたのは、主人公が鬼としては頭に角の跡らしきものがある中途半端な容姿をし、人との関りを求めながらなかなか受け入れられず悩んでいるところから物語が始まる点である。赤鬼の状況描写は、主に東北地方に伝承される「鬼の子小綱」の「片子(小綱)」を想起させる。「片子(小綱)」とは、宮城県仙台市に伝わる話では、鬼と日本人女性の間に生まれた半人半鬼の子どもであり、自分の母親を鬼が島から人里に戻す手助けをしたものの、その姿から村人に受け入れられず、最後は自分の身体を犠牲にして鬼から親を守り自殺する話として残っている。この話から、「片子」とは、鬼の社会にも人の社会にも帰属できないことから、パークの言う「異質な諸社会の境域に立ち、いかなる社会にも十分に帰属できないマージナル・マン(周辺人・境界人)」と解釈できよう。現代のマージナル・マンの例としては、白人と黒人の混血児ムラトー、西洋人と東洋人の混血児ユーラシアンなどが挙げられる。



浜田広介  
1893～1973  
(Wikipediaより)

赤鬼も典型的な鬼とは容姿が異なり、青鬼のように村からはるか離れた山奥に住むのではなく、村近くの山に住んで村人と交流を持つことを願いながら受け入れてもらえぬ状況を見ると、容姿の点でも社会への帰属という点でも「マージナル・マン」として解釈できないであろうか。マージナル・マンは片子のように差別の対象となる。村人が赤鬼の家を訪れるようになって、赤鬼だけが村人を接待する一方的な関係は、両者が差別を前提に関係を持つようになったとも考えられる。島崎藤村の「破戒」の中に、一般人は穢多の家を訪れても穢多の出す茶は飲まないの、穢多の方もあえて茶は出さない習慣が描かれているが、村人が赤鬼の茶や菓子を食べただけでギブアンドテークの関係が成り立ったとも考えられる。

このようなことを考えると、「泣いた赤おに」を、社会に受け入れられない、移民や外国人や帰国子女や障害児者や不登校児など、現代の日本の問題と関連付けて読むこともできよう。また、作者浜田広介自身が赤鬼に投影されているのではとの連想が広がってくる。

広介は米沢の旧制中学校に入学する時に家族から離れて母親の従妹のさよの世話になるが、その後すぐに両親が離婚し母親ときょうだいは家を去る。また、中学卒業後家族への想いを断ち切って上京し、後を追って上京したさよの援助を受けながら自分の身を立てるために精力を注ぐ。広介の娘である浜田留美は父の生涯について書いた著書(「父浜田広介の生涯 筑摩書房 1983年」)の中で、自己を生かすために家族との「断ち切りがたいきづな」を犠牲にして上京した哀しみを持つ父とこの作品を重ね、山形と東京の狭間で揺れる父を赤鬼の中に見ている。広介も以上の理由からマージナルな存在であったと言えよう。

それ以外に、父為助と関連付けることもできよう。為助は仕事を嫌い、家庭を顧ることがなかったために、広介の母やすと離婚に至る。その後、破産して村はずれの追兼橋(おっかなばし)に掘って小屋を建てて一人で住んだことから、村人に「追兼橋の奇人」と呼ばれていたと言う。村里近くの山に住む赤鬼と重ならないであろうか。



「マージナル・マン」はライフ・サイクルの視点から青年期を指して使われることもある。大人の文化や価値観を疑うことなく信じていた子どもの時期を脱し、大人の文化や価値観への不信・反発が生じる、子ども文化と大人文化の境界にいる青年を、レヴィンは「マージナル・マン」と呼んだ。エリクソンが青年期を「社会的責任を一時的に免除あるいは猶予され自分のアイデンティティを迷いながら探し求めているモラトリアム（猶予）の時期」と捉えた概念に近いものがある。

これを踏まえて、赤鬼を「ライフ・サイクル」の視点から大人になる前の青年期にある「マージナル・マン」として見ることも可能ではなかろうか。赤鬼が自分の「アイデンティティ」を、鬼のために良いことをし、人間とも仲良く暮らす存在になることに求め、立札に自分がやさしい鬼であることを記す。しかし、立札を読んでも警戒する村人に腹を立て、立札を引き抜いて踏みつけて割るほどの怒りを見せる。このように自分は良き鬼であると語りながら、意に反することに簡単に腹を立て良き鬼像が破綻をきたすなど、まだ求める自我像が内在化されていない青年期の未熟さを示す。この未熟さは、鬼を警戒する村人に対して、ただ立札を立てて待つだけで、他の主体的な働きかけに思いが及ばない点にも認められる。「君にすまない。」と言いつつ、青鬼の提案にあっさり乗って偽りの演技を行ってしまう所にも、赤鬼の主体的自我は感じられない。村人との交流が生まれるようになって、先述したように赤鬼が村人に茶や菓子を一方向的に供するだけである。村人が都合よくたかる描写であると感じる一方、赤鬼が村人と対等で双方向的な関係を結べない未熟さが窺える。

青鬼が姿を消し赤鬼は友達を失うことになるが、ここで初めて赤鬼は真の孤独に直面し、自己についての内省が始まるのではなかろうか。今までは良き鬼とは何かを深く考えることもなく、自分はやさしい鬼と思い込んでいた。しかし、青鬼に去られたことで、赤鬼は自己の生き方に直面せざるをえなかったのではないか。青鬼は自分にとってどういう存在であったのか、偽りの演技をして村人の信用を得たことはどうであったのか、これから村人とどうつきあっていけばよいのかなど、赤鬼に多くの内省が生じ、アイデンティティ獲得へむけての自分の模索が始まるのではなかろうか。この作品はその後の赤鬼と青鬼の物語が次々と連想される性格を有している。マージナルな存在であることは、被差別的な立場に追いやられるだけでなく、脱差別の方向を志向することにもつながる。どちらの世界にも属せないが、逆に2つの世界に深く関わりながら、どちらにも埋没しないことで、自己の輪郭を明確にし可能性を広げていく物語を紡ぎだせるように思える。

以上、赤鬼を中心にマージナル・マンの視点から書かせていただいた。青鬼については「トリックスター」や、広介がこの作品を書くきっかけになったと述べている「恵喜童子」の視点から考察したらおもしろいと思うが、長くなるので割愛し筆を置きたい。

## アメリカだより(4)

黒坂和彦

(当会理事・1986年・文学部卒)



早いもので、米国ニュージャージー州に赴任してから2回目の夏を迎えました。7月中旬になっても20度前後までしか気温が上がらず、このまま短い夏が終わってしまうかと思われましたが、8月に入って30度前後の気候が続いています。日本と違い、湿度は低いので夏でも過ごしやすいのですが、9月、10月になると冬支度の季節に入ります。

これまでお伝えしたとおり、オフィスと住居のアパートの間は、徒歩3分程度の距離で、中間に大きな駐車場があります。この駐車場を経由して、通勤しています。厳寒の際は助かりますし、通常、ランチも自宅に戻って取り、外食の必要がありません。

日本では、仕事帰りに同僚や友人と一杯という生活を、結構楽しんでいました(馬場の居酒屋がなつかしいです)。車での移動が多いので、日本にいたときと同様にはいきませんが、自宅から徒歩圏内に、「HACHI」という、美味しいお寿司屋さんがあり、月に数回は通っています。ニュージャージー州は、酒類販売のライセンスを持たないお店が多く、無料でワインやビールを持ち込めるので、比較的リーズナブルな料金で日本食を楽しめます。

前述のとおり、通勤時間が短いことは、色々とメリットはあるのですが、オンとオフの切替えが難しいというデメリットがあります。日本の本社や欧州にある取引先とのWebや電話会議が、定期的にあるので、時差の関係上、深夜や早朝にオフィスに出向くこともあります。どうしても仕事漬けになりがちなので、週末には家内と小旅行を、年末や夏休みに、長女や次女が遊びに来た時は、1週間程度の旅行を、できるだけ出費を抑える工夫をしながら、楽しんできました。これまで、海外はアイスランド、カナダ、メキシコ、米国内はボストン、ワシントン等を旅行しました。



実は、先週、ラスベガス(ネバダ州)、グランドキャニオン(アリゾナ州)、モニュメントバレー(ユタ州)の旅行から帰ってきました。大学3年生の次女が、インターンやゼミ合宿のスケジュールの合間を縫って、ジョインしてくれました。これまでの旅行で一番印象に残りましたので、この旅行について、少々触れたいと思います。

まず、最初にラスベガスに入りました。ニューヨークから5時間ほどのフライトです。米国内のフライトは比較的安く、今回、一人往復5万円程度で済みました。ただ、荷物を一つ預けると3千円ほど、フライト内でビールを購入すると千円ほどかかります。

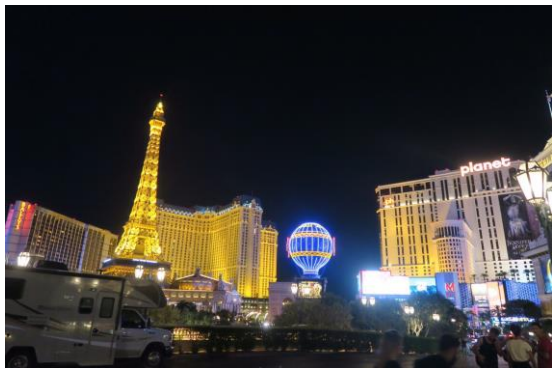


写真1:ラスベガス

写真左のパリスホテルに宿泊しました。パリをイメージしたホテルで、エッフェル塔のレプリカが近くにあります。24時間、眠らない街です。

ラスベガスには、長女(25歳)が1歳半の時に旅行しました。宿泊したホテルのカジノに、長女を抱っこして入ったら、当然ですが、ホテルのスタッフから止められました。家内と長女を部屋に置いて、スロットマシンに臨みましたが、数百ドルすってしまった思い出があります。今回は数十ドルで済ませました。ラスベガスからバスで、1979年に世界遺産に登録された、グランドキャニオン国立公園に移動しました。ここも2回目でしたが、ダイナミックな日没の様子を見ることができました。

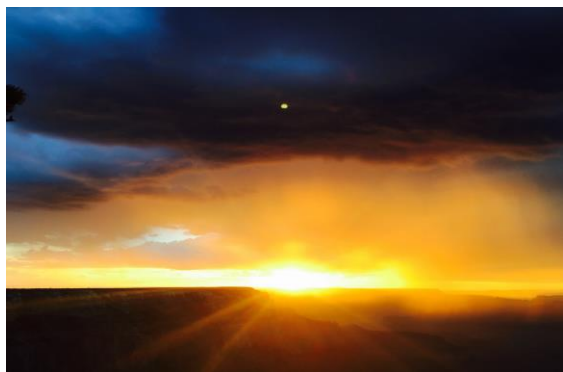


写真2:グランドキャニオン

壮大な風景の中、夕暮れを見ることができました。

3日目に行ったモニュメントバレーが、特に印象に残りました。モニュメントバレーは、米国先住民の中でも、最大のナホバ族の居住区にあります。The View Hotelに1泊しました。国立公園内にある唯一のホテルで、ナホバ族の方々に運営されています。一番感動したのは、星空です。今まで見たことのない満天の星空でした。流れ星を、頻繁に観察することができました。



写真3:モニュメントバレー

鮮明ではありませんが、ホテルルームのバルコニーから撮影した写真です。静かな環境で、1時間ほど、星空を楽しみました。

ツアーガイド(日本人)の話ですが、ナホバ族においては、女性の地位が男性より高く、結婚の際は、男性が婿入りするのが一般的とのこと。確かにホテルのスタッフは、ほとんど女性でした。公園内のツアーは、ナホバ族の女性と男性に説明を受けましたが、女性の接客や説明が、はるかに上でした。ナホバ族の居住区内では、アルコール類の販売が禁止されています。これもツアーガイドからの情報ですが、過去、ナホバ族の男性が、白人文化の影響で酒類を嗜むようになり、仕事をしなくなったので、禁酒法が定められたとのこと。

楽しい旅行でしたが、大型バスでラスベガスに戻る帰路、ハイウェイで乗用車と接触事故があり、代わりのバスが来るまで、5時間ほどバスで待機するというアクシデントがありました。地元の警察や消防隊が来て、一時騒然となりましたが、幸いけが人がいませんでした。ツアー参加者約50名は、全員日本人で、皆さん落ち着いていて、混乱はありませんでした。ラスベガスのホテルに戻ったのは、深夜2時過ぎで、さすがに疲れました。

最後トラブルがありましたが、また、モニュメントバレーには行きたいです。もしラスベガスに行く機会があれば、お薦めの観光スポットです。今回の旅行で、米国先住民の歴史について、興味を持ちました。米国滞在中に、色々調べてみようと考えています。

生理心理学精神生理学研究部会

部会幹事・市原 信

(当会理事・1973年・文学部卒)

●第70回研究会

日時：2017年3月11日(土)15:30-17:30

場所：スポーツ科学学術院570実験室

演者：松橋拓努氏(早稲田大学スポーツ科学学術院・修士課程)

演題1.: 運動学習とパフォーマンスモニタリング機能の関係  
要旨

運動学習課題には系列運動課題と適応課題がある。系列運動学習課題には大脳基底核が主に関与し、適応課題には小脳が主に関与する。エラー検出や行動修正を担うパフォーマンスモニタリングは、運動学習にとって重要な機能である。パフォーマンスモニタリングはこれまで、エラー関連陰性電位(error-related negativity: ERN)によって検証されてきた。本研究では質の異なる2つの運動学習課題を用いて、課題パフォーマンスとERNとの関係を検討した。ERN発現には大脳基底核の活動が影響することから、特に系列運動学習課題のパフォーマンスとERNとの間に相関関係がみられるものと予測された。実験参加者は、空間ストループ課題によって個人毎のERNを評価された後、系列運動学習課題と適応課題を行い、課題パフォーマンスを測定された。その結果、ERN振幅値は系列運動学習課題のパフォーマンス向上を予測したが、適応課題のパフォーマンス向上を予測しなかった。本実験の結果は、ERN惹起と系列運動学習課題の遂行に大脳基底核という共通した神経基盤を持つことから、ERN振幅値はパフォーマンスの向上を予測したと示唆された。

演者：吉川直輝氏(早稲田大学スポーツ科学学術院・修士課程)

演題2.: 視線行動に着目したアスリートのあがり防止の研究  
要旨

本研究では、生理心理学的手法を適用したQuiet eye (QE)トレーニングと反復把握法と呼ばれる2つの斬新な対処法を用い、両者の相乗効果で「あがり」によるアスリートのパフォーマンス低下を防止させるという方法を着想した。QEとは、重要な動作開始前に生じる注視であり、QEトレーニングでは教示によってQE時間を延長させることを目的とする。反復把握法は、左手の把握動作によって反対側の脳半球を賦活させることを目的とするものである。バスケットボールのフリースローにおいて、十分な技能と経験を有する11名を対象とし、プレテスト・トレーニング・ポストテスト・プレッシャーテストを実施した。トレーニングでは、QEトレーニング群、QEトレーニング+反復把握法群、統制群の3群に分かれ、それぞれの内容に従ったトレーニングを9回実施した。統計的に有意な差は認められなかったが、QE+反復把握法を実施した群はプレッシャーテスト時のQE時間とフリースローパフォーマンスに関して他の群やテスト条件よりも高い平均値を示した。さらに知見を集積していく必要があるものの、QEトレーニングと反復把握法を合わせたトレーニングはプレッシャー下でのパフォーマンス低下を防止し、「あがり」に悩むアスリートやスポーツコーチングに貢献できる可能性があると考えている。

●第71回研究会

日時：2017年8月5日(土)16:00-17:30

場所：江戸川大学

演者：高澤則美氏

演題：生理心理学研究を目指す皆さんへ

ー 気づくこと、何とかすること、気を付けること

要旨

生理心理学あるいは精神生理学では、行動と生理反応との関係を研究対象としている。実験研究において、行動にかかわる変数を独立変数とする場合、特に気を付けるべきことがある。それは、実験で設定した独立変数は、真の独立変数かという問題である。このとき、独立変数としての行動を明確に定義できる場合には、これは問題とならない。例えば、意図的な運動強度の変化と準備電位との関連などである。一方、行動を明確に定義することが困難な場合、研究者は慎重にならなければならない。本日の研究会で話したことから一例をあげると、犯罪捜査に利用されているポリグラフ検査の研究では、しばしば模擬窃盗場面が設定され、実験参加者は自分が盗んだものが何であるかを実験者に見破られないようにごまかすことが要求される。得られた生理反応データは、ごまかすことを要求しなかった条件と比較され、両者の差がごまかすことに関連した反応であると解釈されている。しかし、ここで観察された生理反応が「ごまかす」という独立変数の効果なのかは不明と考えるべきである。実験参加者は、実験者から要求された課題を遂行してはいたが、その具体的な内容は様々であり、実際に何をしていたのかはわからない。このような場合に、得られた従属変数が独立変数の効果であるとしてしまうのは、あまりにも短絡的と言うべきである。生理反応という具体的に明確な測定値を持つことが生理心理学・精神生理学の強みであるが、それゆえに気を付けなければならないことがあることに留意すべきである。独立変数、従属変数を明確に定義し、剰余変数の介在を検討するのはもちろんのこと、研究で設定した独立変数が真の独立変数として機能していたのかを、慎重に吟味しなければならない。

老年学研究部会

部会幹事・谷口幸一

(当会理事・1972年・教育学部卒)

部会幹事・所 正文

(1981年・文学部卒)



老年学研究部会は、二年間の休会期間を挟んで、平成29年度は5月13日(土)に高田馬場で第一回の部会を開催し、今後の活動内容に関して検討した。参加者は6名だった。



## 総会報告

2017年6月24日(土)11時より、早大・戸山キャンパス33号館6階・第11会議室において今年度の総会を開催しました。会員総数152名(2017年6月23日時点)。5分の1の31名以上が必要定数のところ、8名の出席、62通の委任状の提出を受け、8名+62通=70の有効数となり、総会が成立。石井康智氏(70年・文)を議長に選出し、以下の議題が討議され、承認されました。

### 第1号議案 2016年度事業報告

#### ア 第41回年次大会・公開講演会開催

日時:2016年6月18日(土)15時~17時

場所:早稲田大学(戸山キャンパス)34号館453教室

話題提供:柴田 重信氏(早稲田大学理工学術院教授  
／先端生命医科学センター)

「生体リズムに基づいた健康法」

#### イ 懇親会

日時:2016年6月18日(土)17時45分~19時45分

場所:Café VG(カフェベジ)(新宿区 西早稲田)

#### ウ 教養講座開催

##### ・第20回

講師:藤本 靖氏

(ボディワーカー／米国Rolf Institute認定ロルファー)

「センスを磨くのに努力はいらないーココロとカラダの  
悩みを解決するー」

日時:2016年6月18日(土)15時~17時

場所:大隈ガーデンホール

##### ・第21回

講師:富田 真紀氏

(台東区松が谷福祉会館こども療育室)

「『発達障害』のいま:臨床の現場からー『心の理論』か  
ら『社会脳』へー」

日時:2016年11月26日(土)15時~17時

場所:早大 戸山キャンパス 39号館6階第7会議室

エ 瓦版発行 第30号(2016年 12月発行)

第31号(2017年 3月発行)

#### オ 研究部会・・・精神生理研究部会

老年学研究部会(休会中)

#### カ 学会ホームページ運営

(<http://www.waseda.jp/assoc-wpa/>)

キ ブログ運営(<http://wpsy2.seesaa.net/>)

ク 理事会開催・・・全4回開催

2016年5月28日、6月18日、11月26日、2017年1月7日

### 第2号議案 2014年度~2016年度の決算報告

#### ア 2014年度の決算報告

#### イ 2015年度の決算報告

#### ウ 2016年度の決算報告

2016年度・会計報告(12ページ参照)

### 第3号議案 2017年度事業計画ならびに予算案

#### ア 第42回年次大会・公開講演会開催

日時:2017年6月24日(土)15時~17時(14時30分  
開場)

場所:早稲田大学 小野記念講堂

話題提供:坂爪一幸氏

(早稲田大学教育・総合学術院教授)

「高次脳機能からみた大人の『発達障害』」

#### イ 懇親会

日時:2017年6月24日(土)17時30分~19時30分

場所:キャトルフォンテーヌ(新宿区早稲田鶴巻町)

#### ウ 教養講座開催

##### ・第22回

講師:山本利枝氏

(大阪大学連合小児発達学研究所)

「レジリエンスを高め、折れない心を作るには」

日時:2017年5月27日(土)15時~17時

場所:早大 戸山キャンパス 33号館3階 第1会議室

##### ・第23回

講師:長谷川 智子氏

(大正大学心理社会学部教授)

「子どもと「食」の問題を軸にした内容」

日時:2017年10月21日 15時~17時

場所:早大 戸山キャンパス 39号館5階第5会議室

エ 瓦版発行 第32号(2017年9月発行予定)

第33号(2018年3月発行予定)

#### オ 研究部会・・・精神生理研究部会

老年学研究部会

#### カ 学会ホームページ運営

(<http://www.waseda.jp/assoc-wpa/>)

キ ブログ運営(<http://wpsy2.seesaa.net/>)

ク 理事会開催・・・6回程度開催

ケ 2017年度予算案 (12ページ参照)

### 第4号議案 当会の解散について

事務局より資料に基づいて説明があり、満場一致で承認された。なお委任状に、「解散するのは残念」「最後の大会の日程を早めに教えてほしい」などのコメントがあったことが紹介された。

#### ア 解散の提案主旨

・長年新規入会者がいないため長期的に存続できないことが明らかなうえ、心理学教室では学会運営を引き継ぐ環境になく、石井会長が2017年3月に大学を定年退職したことから、早稲田大学心理学会として組織することが難しい状況である。

・会の活動を行える体制があるうちに、解散に向けた計画を立案・実行することが望ましいと判断した。

(次ページに続く)

2016年度(2016年4月1日～2017年3月31日) 会計報告

単位：円

| 収入               |         |                                                                  | 支出               |         |                                                       |
|------------------|---------|------------------------------------------------------------------|------------------|---------|-------------------------------------------------------|
| 項目               | 金額      | 備考                                                               | 項目               | 金額      | 備考                                                    |
| 会費収入             | 230,000 | 会費76口（2014年以前分 3名、2015年分 6名、2016年分 67名、2017年分 1名）、会費一部（2000円） 1名 | 会合費              | 6,669   | 理事会 弁当など                                              |
| 補助金              | 0       |                                                                  | 人件費              | 90,000  | 教養講座講師謝礼 2名、公開講演会講師謝礼                                 |
| 寄付金              | 0       |                                                                  | 通信費              | 43,227  | 郵送料金                                                  |
| 雑収入              | 0       | 銀行利息                                                             | 消耗品費             | 15,632  | 紙代                                                    |
| その他              | 35,000  | 懇親会 会費（3500円×10名）                                                | 印刷製本費            | 34,910  | 印刷費、はがき代                                              |
|                  |         |                                                                  | 研究会助成費           | 0       |                                                       |
|                  |         |                                                                  | 名簿作成費            | 0       |                                                       |
|                  |         |                                                                  | 業務委託費            | 126,737 | 瓦版29号等発送手数料 10,130円、瓦版30号発送手数料 6,393円、会員管理業務 110,214円 |
|                  |         |                                                                  | 雑費               | 2,461   | 銀行手数料                                                 |
|                  |         |                                                                  | その他              | 38,500  | 懇親会 食費・会場費（11名）                                       |
|                  |         |                                                                  |                  |         |                                                       |
| 収入計              | 265,000 |                                                                  | 支出計              | 358,136 |                                                       |
|                  |         |                                                                  | 収支差額             | -93,136 |                                                       |
| 前期繰越差額 2,173,991 |         |                                                                  | 当期繰越差額 2,080,855 |         |                                                       |

2017年度(2017年4月1日～2018年3月31日) 予算案

単位：円

| 収入               |         |                   | 支出               |          |                                        |
|------------------|---------|-------------------|------------------|----------|----------------------------------------|
| 項目               | 金額      | 備考                | 項目               | 金額       | 備考                                     |
| 会費収入             | 210,000 | 会費70口             | 会合費              | 7,000    | 理事会 弁当など                               |
| 補助金              | 0       |                   | 人件費              | 90,000   | 教養講座講師謝礼 2名、公開講演会講師謝礼                  |
| 寄付金              | 0       |                   | 通信費              | 44,000   | 郵送料金                                   |
| 雑収入              | 0       | 銀行利息              | 消耗品費             | 15,000   | 紙代                                     |
| その他              | 58,320  | 懇親会 会費（4860円×12名） | 印刷製本費            | 34,000   | 印刷費、はがき代                               |
|                  |         |                   | 研究会助成費           | 150,000  | 精神生理（2014～2017年度分）、老年（2017年度分） 30,000円 |
|                  |         |                   | 名簿作成費            | 0        |                                        |
|                  |         |                   | 業務委託費            | 125,000  |                                        |
|                  |         |                   | 雑費               | 2,461    | 銀行手数料                                  |
|                  |         |                   | その他              | 53,900   | 懇親会 食費・会場費（11名）                        |
|                  |         |                   |                  |          |                                        |
| 収入計              | 268,320 |                   | 支出計              | 521,361  |                                        |
|                  |         |                   | 収支差額             | -253,041 |                                        |
| 前期繰越差額 2,080,855 |         |                   | 当期繰越差額 1,827,814 |          |                                        |

イ 解散の手続き

- ・2018年の総会において解散の決議を行う。
- ・総会の成立要件について明確な規定がないことから、理事会の規定に準じて、4分の1以上の出席または委任をもって成立とする。
- ・会議の議事は、規定に則り出席者または委任者の過半数の同意をもって決するとする。

ウ 解散に向けた活動

- ・当会の目的に「この会は、早稲田大学を母体とする心理学の発展ならびに会員相互の親睦を図ることを目的とする。」に沿って、残余財産を処分する。
- ・解散式を兼ねて会員の懇親会を開催する。
- ・上記の詳細については理事会にて検討を行い、2018年の総会にて提議する。

発行元： 早稲田大学心理学会  
〒162-8644 新宿区戸山1-24-1  
早稲田大学文学部心理学教室内  
電話 03-5286-3743 FAX 5286-3759  
担当：石井康智  
メール：waseda\_shinri@yahoo.co.jp  
担当：朝岡美好

書類発送元：  
一般社団法人学会支援機構  
〒112-0012 文京区大塚5-3-13  
小石川アーバン4F  
電話 03-5981-6011 FAX 5981-6012

早稲田大学心理学会ホームページ：  
<http://www.waseda.jp/assoc-wpa/>